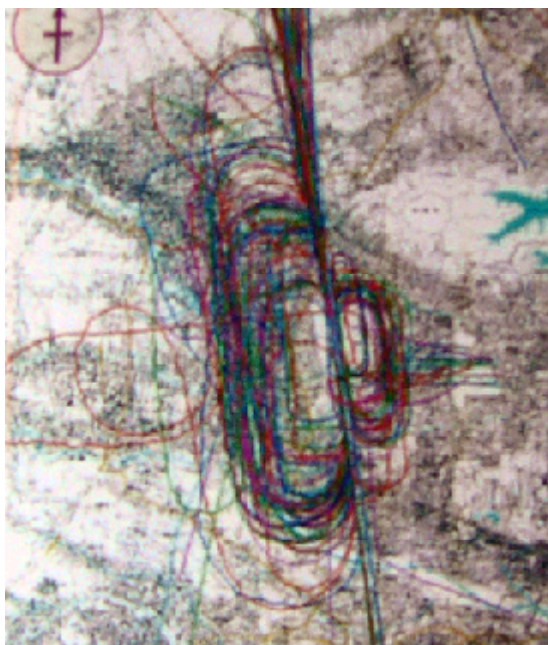


世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2013.7.5 No.170 連絡先 FAX 042-555-1911



米軍機が米軍基地内のように 横田基地周辺の住宅地を飛行している



左は、横田基地周辺の航空機の航跡図です。測定期間は2010年11月の10日から26日までの8日間です。東京都環境局の「横田飛行場周辺航空機騒音調査」によります。

縦の幾重にも重なった線は、滑走路上の航跡で、上の方は瑞穂町から埼玉県に至ります。左の楕円は、滑走路から瑞穂町、羽村市、福生市、昭島市へと巡回（逆コースもあり）している、主にC-130輸送機の航跡図です。入間市や、あきる野市で航跡を描いているのもあります。

右少し上に青く見えるのは狭山湖（山口貯水池）、下に少し見えるのは多摩湖（村山貯水池）です。滑走路の右側の小さな楕円は主にUH-1Nヘリコプターの航跡図です。

最近C-130は、編隊飛行もやっているし、飛行コースも自由気ままで、武蔵村山市でも目撃されています。近いうちに、そしてたびたび、航跡調査をしてもらいたい。

住宅地での訓練はありえないアメリカ

アメリカでは飛行訓練にさいしては、人間はもとより、「動植物に影響を与えてはならない」ということになっています。

飛行訓練を行っていて有名なのが米エドワーズ空軍基地ですが、広大な砂漠のなかにあります。面積は1,218k㎡、横田基地の面積7,136k㎡の約170倍です。東京・多摩地域の面積1,164k㎡をも上回ります。



上は、東京の地図にエドワーズ空軍基地（ピンクの太線）を重ねた図ですが、これだけ広くなくても米国内の基地はかなり広いので、米軍機が民間地の上空を訓練飛行することはありません。横田基地周辺では、2005年10月、住宅防音工事の対象区域が縮小され、騒音は増えました。

～静かな空を求めて～ 第2次新横田基地公害訴訟原告団の第1回口頭弁論

日時 2013年7月10日 午後1時30分から（1時から地裁前で事前集会）

場所 東京地方裁判所立川支部（民事第1部）101号法廷

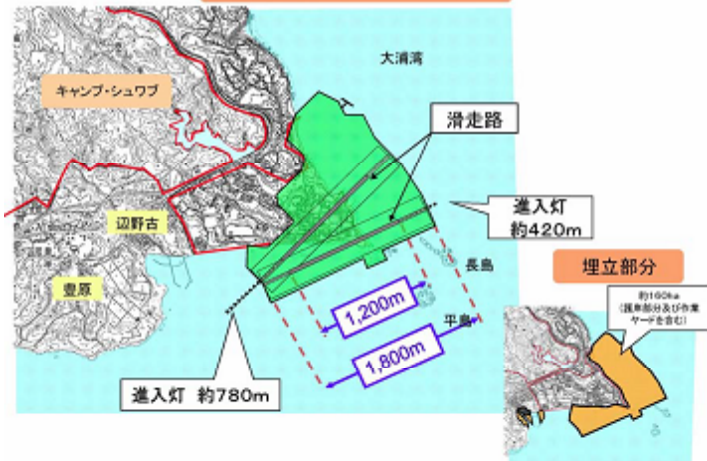
◎ 午後2時50分から多摩支部弁護士会館で報告集会

米軍横田基地の周辺住民が国に対し、米軍機の爆音被害の賠償と、午後7時から翌日午前7時までの離発着、エンジン作動の差し止めを求める第2次新横田基地公害訴訟を今年3月26日、東京地裁立川支部に起こしました。101号法廷は広いようです。傍聴にご参加を。

辺野古埋め立て 縦覧はじまる 公費は2300億円

(No. 170 の裏面)

飛行場施設の位置・形状



沖縄県は6月28日、名護市辺野古への米軍新基地建設のための埋め立て申請書の告示・縦覧を開始しました。期間は7月18日までです。政府は3月22日に、申請を強行していました。

申請書によると、埋め立てによって、辺野古の砂浜の大部分が消失し、住民らが座り込みをしている名護漁港周辺も埋め立てられます。

全体工期は「5年」と明記。埋め立て用の土砂約2100万立方メートルについては、岩ズリ1644万立方メートル、海砂58万立方メートルを購入、残りの山土360万立方メートルは辺野古

古周辺で採取します。県外購入の岩ズリについては、九州・瀬戸内地方におよぶ7地区13地点の採取場所を初めて記しました。埋め立て費用は、国民の税金2300億円が充てられます。

縦覧期間中、県は利害関係者からの意見書を受け付け、知事の判断に反映させます。**意見書は環境問題に関心のある団体・個人を問わず、誰でも提出できます。**

申請書は県ホームページで見ることができます。ところがこれが8000ページにおよぶ膨大なもので、とても読み切れるものではありません。国民を煙に巻く欠陥書類です。しかし、黙ってはいられません。意見書を出しましょう。7月5日の「平和新聞」意見書の書き方例が載っています。

【利害関係の内容】*埋め立てに使われる税金を納めています。

*子や孫、そして未来の世代に、この美しい海を残すのが大人の責任と考えるものです。

【意見】*沖縄にも日本のどこにも、米軍基地はいりません。豊かな海を、軍事基地のために利用させないでください。知事が、埋め立て承認申請を却下するよう求めます。

*辺野古・大浦湾には、絶滅のおそれのあるジュゴンや沖縄島周辺で最大規模の海草藻場、アオサンゴ群集、6種類のクマノミやトカゲハゼ、クビレミドロなど多くの生き物がすんでいます。この生物多様性の宝庫を子孫の代までに残すためにも、埋め立てを承認しないでください。

以上は「平和新聞」からの転載ですが、意見書の書式についても4面に載っています。2倍に拡大して使用してください。7月18日までに郵送（当日消印有効）してください。

「へり基地反対協」の安次富浩共同代表は、「政府は辺野古の海を死の海にするために、ムダ金を使おうとしている。埋め立て申請への意見書提出を、多くの人に訴えたい」と語っています。

1953年当時 史上最大の事故《立川基地グローブマスター機墜落事故》

1953年6月18日午後4時31分、東京都立川市にある米軍立川基地を飛び立った米軍の大型輸送機グローブマスター(C-124)が、午後4時34分に東京都小平町(現・小平市)の畑に墜落し、爆発炎上しました。この飛行機には日本で休暇を取っていた朝鮮戦争従軍兵士(陸軍と空軍)の兵士および飛行機の乗員ら合計129名を乗せていましたが、全員が死亡しました。

この事故は人類の航空機史上初めて死亡者100名を超えた事故であり、事故発生当時は航空機史上もっとも死者の多い事故でした。ほかに、農作業をしていた男性1名が火傷を負いました。

事故後すぐに、立川基地や横田基地から来た米軍兵士らが銃を持って立ち現場を封鎖、日本人を締め出しました。事故機の犠牲者は米軍の手により立川基地へ搬送されました。

死亡者が全員米軍関係者ですが、朝鮮戦争中に起きた、忘れてはいけない墜落事故です。